

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 王寺 賢太					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	歴史家レナルと18世紀西欧における世界史叙述の勃興										
[授業の概要・目的]											
<p>ギヨーム=トマ・レナル(1713~1796)は、今日『両インドにおけるヨーロッパ人の植民と商業についての哲学的・政治的歴史』(邦訳あり)によって知られる18世紀フランスの歴史家である。1770年、1774年、1780年と増補改訂を加えながら版を重ねた『両インド史』は、とりわけ晩年のドニ・デイドロ(1713~1784)が匿名で執筆した数々の政治的雄弁の断章によって、「旧体制」末期の同時代の西欧と世界の政治・経済の現状を検討し、果敢な批判と改革の提言を行った書物として知られている。</p> <p>本講義では、『両インド史』の著者レナルの18世紀中盤以来、歴史家・ジャーナリストとしての業績を検討し、18世紀の西欧と世界が経験した歴史的動揺と、それに伴う政治的・経済的言説の変動のなかで、レナルがどのようにして地球規模の広がり視野に入れた「世界史」叙述を行なうに至ったか、そしてその「世界史」叙述が具体的にどのような記述を展開し、著者たちのいかなる政治的立場と結びついてきたかを検討する。フランスに限らず、広く18世紀西欧の歴史、歴史叙述、政治思想、経済理論を射程に入れ、アメリカ合衆国独立とフランス革命を経験する18世紀末の西欧が、「近代」のとば口にあっていたいかなる世界観を紡いでいたかを議論したい。</p>											
[到達目標]											
<p>16~18世紀の近世フランスを中心に、「近代」の政治=経済体制を先駆的に実現することになった西欧の歴史と文化についての広い教養を身につける。</p> <p>18世紀フランスを中心に、歴史叙述・政治思想・経済理論など、後代の「社会科学」的言説の先駆となる18世紀西欧の「文芸」・「哲学」の諸ジャンルについて知見を深める。</p> <p>一般に、古典的文献を精密に読解し、同時代の社会的条件や出来事と対比しながら、思想史を捉える手法を身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に、本講義の後期は『両インド史』の三つの版(1770/74/80)に現れる18世紀末の世界の諸問題に焦点を当てて講義する。その際、鍵となるフランス語テキストの抜粋を配布し、その都度、受講生に訳読を担当してもらう。</p> <p>『両インド史』の問い：商業の発展と「文明化」の帰趨 『両インド史』の一起源(1)：フランス・インド会社改廃をめぐる論争 『両インド史』の一起源(2)：フランス・インド会社改廃をめぐる論争 『両インド史』の一起源(3)：フランス・カリブ海植民地をめぐる論争 アジアの帝国の評価と同時代の政治・経済学的論争(1)：中国叙述をめぐって アジアの帝国の評価と同時代の政治・経済学的論争(2)：中国叙述をめぐって 宣教の時代の終わり「野生人の文明化」(1)：パラグアイ・ミッション叙述をめぐって 宣教の時代の終わり「野生人の文明化」(2)：パラグアイ・ミッション叙述をめぐって 「ヨーロッパの野蛮の洗練」？(1)：黒人奴隷制批判と「解放」の展望 「ヨーロッパの野蛮の洗練」？(2)：黒人奴隷制批判と「解放」の展望 「文明化」の終わりか、再始か(1)：「アメリカの革命」の叙述をめぐって</p>											
西洋史学(特殊講義)(2)へ続く											

西洋史学(特殊講義)(2)

「文明化」の終わりか、再始か(2)：「アメリカの革命」の叙述をめぐって
ヨーロッパにおける旧体制の終焉(1)：『両インド史』第19篇の国際関係論
ヨーロッパにおける旧体制の終焉(2)：『両インド史』第19篇最終章をめぐって
予備

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

フランス語が読める学生には、通常授業でテキストの翻訳を担当してもらう。ほかに期末にレポートを課す予定。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

訳読の担当は、フランス語のトレーニングとってください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。